

令和7年度 大阪府環境審議会 第5回 環境・みどり活動促進部会

議事概要

日 時：令和7年10月23日（木）15時00分～17時00分

開催方法：大阪府咲洲庁舎37階会議室（小）（WEB会議システム併用）

出席者：花田委員（部会長代理）、藤田委員、岡見委員、畠委員、佐久間委員

1 開会

2 議事概要

議題1：令和8年度環境保全基金活用事業について

事務局より、環境保全基金の推移及び令和8年度事業（案）について説明し、各委員からの意見を踏まえ事務局で検討を進めるといった方向性を確認。委員の主な意見は以下のとおり。

【ツール普及に向けた住宅断熱改修の効果検証モデル事業】

（岡見委員）

住宅断熱性能可視化シミュレーションツールについて、府民が利用するという想定なのか。

（事務局）

令和6年度に事業者向けと府民向けの2種類のツールを作成した。事業者向けは設計事務所や工務店等を対象で、府民向けは一般の方を対象としている。今後は効果検証を行い、両者への普及拡大を図る予定である。

（岡見委員）

府民へ断熱の方法などを普及することは難しいと感じている。事業者向けがあるというのなら、住宅メーカー等を通じてリフォーム時に営業ツールとして活用してもらう等、事業者と連携した普及が広める上で有効に思う。事業者との連携状況について教えてほしい。

（事務局）

事業者向けのツールは、大阪府建築士会や建築関係団体の方と連携をして開発したものになる。その関係もあり、設計事務所や工務店に顧客への説明する際に活用いただいているところ。今後はリフォーム団体とも連携して、断熱の効果やメリットを普及できればと考えている。

【脱炭素経営促進に向けた支援体制強化事業】

（花田委員）

資金の流れを通じて脱炭素の取組を推進することが大切。また、大阪には、熱心な金融機関が多く存在するので、こうした金融機関を中心に大阪ならではの形で進めていくと良いと思う。

(岡見委員)

非常に良い仕組みだと思う。大阪府地球温暖化防止活動推進センターを中心とした支援やマッチング機能が重要と感じる。これまでセンターが培ってきた色々なノウハウがあるので、その機能を発揮していただければと思う。

【サーキュラーエコノミー動脈連携促進事業】

(花田委員)

市場として動いていかないと広がっていかないように思う。事業者間の連携に加えて、消費者の意識醸成と普段の生活につながる行動変容を促すことが重要である。

(岡見委員)

リサイクルに加え、リユースもサーキュラーエコノミーの実現には不可欠であると考えている。事業の中でリユース事業者を対象とする予定があるか確認したい。

(事務局)

プラスチック・繊維分野でこの動脈連携を検討しているが、例えば繊維では90%がリユース等で再利用されるということが分かってきたので、リサイクルよりもリユースを最優先とした資源回収スキームを現在構築中である。同じように、プラスチックでも、リユースを優先した形で進めていきたいと考えている。

議題2：令和8年度みどりの基金活用事業について

事務局より、みどりの基金の推移及び令和8年度事業（案）について説明し、各委員からの意見を踏まえ事務局で検討を進めるといった方向性を確認。委員の主な意見は以下のとおり。

【みどりの基金の推移について】

(佐久間委員)

令和5年度の歳入が大幅に増加した要因について、1団体からの大型寄附によるものか、複数の団体の寄附が重なった偶発的なものか。また、令和7年度の歳出予算額が例年よりも多くなっている理由を教えてほしい。

(事務局)

令和5年度の歳入の大幅な増は、1件の大型寄附によるもの。

歳出額の違いに関しては、令和6年度以前は決算額、令和7年度は当初予算額を記載していることによるもの。また、令和7年度から自然環境保全事業を新設したことにより、2,400万円の増額となっている。

【地域緑化推進事業】

(花田委員)

クビアカツヤカミキリの増加の一因には、桜など、好む樹種に偏った植栽も影響している可能性がある。配付する苗木の種類についてはどのように選定しているのか。

(事務局)

地被類やつる植物もあわせて26種類を配付対象としており、希望する樹種を選んで申請いただいている。

(花田委員)

苗木は在来植物なのか。

(事務局)

現在配付対象としている樹種は、主に育てやすさ等の観点で選定しており、必ずしも在来種ではない。改定作業中のみどりの大阪推進計画では、生物多様性の観点が将来像や目標に盛り込まれる予定であり、樹種の変更も検討していく必要があると考えている。一方で、酷暑により、在来種は生育しにくい過酷な環境になっているという状況もある。植栽後も地域の方々で維持管理していただくという趣旨もあるため、いきなり在来種に変更することで育てにくくなってしまうかもしれない点が懸念される。連携して事業実施している市町村とも適宜協議しながら、新しいみどりの大阪推進計画の内容に沿った形で、検討していく考えている。

【自然環境保全事業】

<特定外来生物防除行動の促進>

(藤田委員)

特定外来生物クビアカツヤカミキリの捕獲大会は、市民・府民への普及啓発や関心喚起という点で非常に良い取組だと思う。クビアカツヤカミキリの捕獲数や課題等を教えていただきたい。また、特定外来生物というところで、生きたままの移動など制約があったと思うが、そのあたりについても教えてほしい。

(事務局)

今年度のクビアカツヤカミキリ捕獲大会は、府内 8 ヶ所で実施され、1 大会あたり約 30 名、全体で 200 名以上が参加した。大会中の捕獲数は、1 大会あたり数十匹から 100 匹弱で、合計約 200 匹。大会以外でも自主的な捕獲の持ち込みがあり、合計で 2,000 匹以上が持ち込まれ、全体で約 3,000 匹を捕獲した。課題としては、個人での自主捕獲は多いものの、持ち込み場所が限られていたこと。来年度はより多くの方に捕獲に参加いただけるような仕組みづくりを作りたい。クビアカツヤカミキリの生きたままの移動については、持ち込む際は事前に殺処分した上で持参するよう参加者に周知している。

(畠委員)

クビアカツヤカミキリの防除は、大人だけでは手に負えない状況にあり、商業的にも限界に達している。そのため、成虫の捕獲を理科や環境教育の授業に取り入れ、小学生に協力してもらうことが有効と考えている。可能であれば行政主導で仕組みを作りたいと考えている。

(事務局)

理科教育ネットワークという小学校・中学校の理科の先生方が集まる場を活用し、情報提供等を行っていきたい。

事務局より今後のスケジュールについて説明。

3 閉 会

以 上